

地形図の外側にあるいろいろな情報

2万5千分1地形図や電子地形図の地図の外側には、地図を読解するための様々な情報（地図記号の凡例など）が表示してあります。

2万5千分1 地形図

索引図：
この図を中心に隣接する図名を表示

地域図・行政区画：
この図のおよその範囲（都道府県・市区町村等）を表示

地図の基準：
位置や高さの基準、投影法など図がどんな仕様で作られているかの説明

**磁気偏角
（磁気方位）**

測量履歴等：
地図情報の調整や発行した時期などの説明

図名：
地形図ごとに付けられた固有の名称
1. 地形図の中に表示された著名な居住地名
2. 行政名や自然地名

青い三角：
日本測地系（平成14年4月1日以前）による図郭の位置（四隅それぞれにある）

地図記号凡例：
地形図で使われている地図記号の説明

**縮尺に対応した
距離の目盛り**

赤い三角：
隣接する図郭線の位置（重複部を表す）

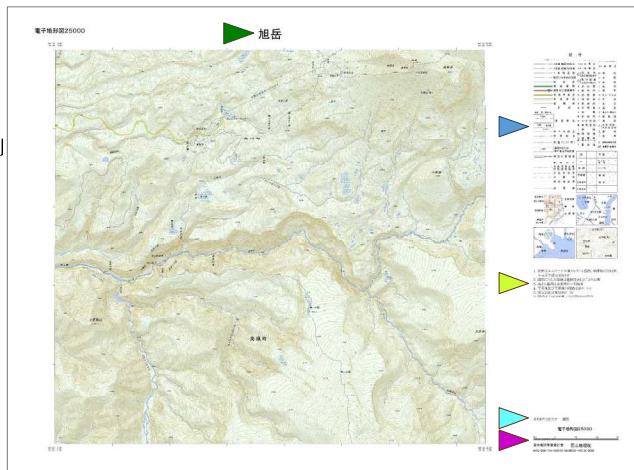
経度（東経）の値

緯度（北緯）の値

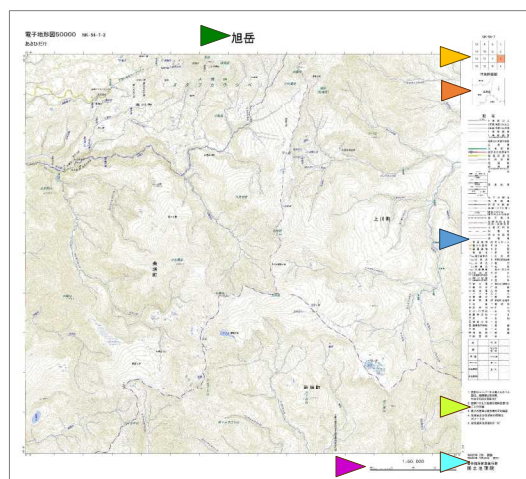
**経度差または緯度差の1' ごと
の目盛り**

電子地形図 25000 定形図郭版

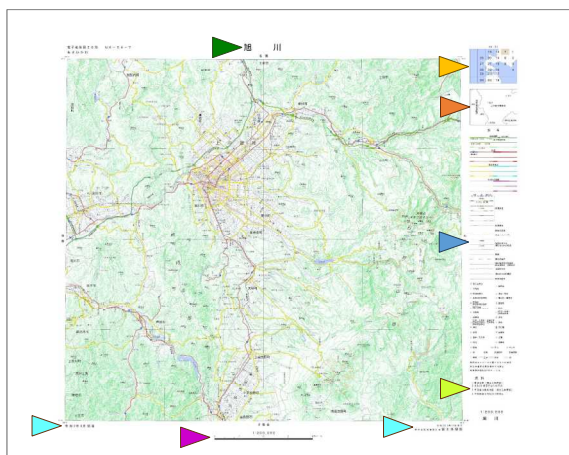
（自由図郭版の凡例は別紙に記載）



電子地形図 50000



電子地形図 20万



スマホで見る地理院地図などのweb地図も地形図などの紙地図でも、地図の向きをその場所の東西南北に合わせてから現地と地図を見比べれば、迷わずに目的地に行けるよ！

基礎からわかる2万5千分1地形図(2)

○地形図1枚に含まれる範囲

- 地形図1枚に表示される範囲は、緯度差5分、経度差7分30秒ごとに区画される区域に、隣図との重複部を合わせた範囲が表示されています。
- 隣図との重複部は、緯度方向の重なりが緯度差各20秒以内の範囲で、経度方向は緯度帯により重複幅が異なり0秒～2分20秒です。重複部は沖縄県などは狭く北海道は広くなります。



○地形図上の距離と実際の距離

地形図上 縮尺の分母 実際の距離

$$40\text{mm} \times 25,000 = 1,000,000\text{mm} = 1,000\text{m} = 1\text{km}$$

(人差し指と中指を広げると約8cmなので、2万5千分1では約2kmです)

○標高（高さ）は等高線で表す

- 地形図で表示している高さは、東京湾の平均海面を0mの基準面としたもので、基準面からの高さを標高と呼びます。
(また、近隣の海面（たとえば大阪湾など）からの高さは海拔とよびます。)
- 同じ標高の場所を結んだ線を等高線といいます。等高線には以下の種類があります。

主曲線

10m間隔

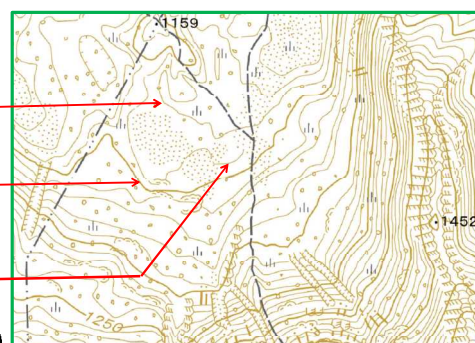
計曲線

50m間隔

補助曲線

5m又は2.5m間隔

(緩やかな傾斜地や複雑な地形がある場所)



- 急斜面は土がけや岩がけの記号を用いて表現しています。

土がけ
(土等でできた急斜面)

岩がけ
(岩等でできた急斜面)

